

*Pruni-Persicae.*

The accidiosorial stage of the present species was treated by the senior writer as a synonym of the former species in 1952.<sup>1)</sup>

○愛媛県のナタオレノキ (山本四郎) Shiro YAMAMOTO: *Osmanthus Zentaroanus* Makino in Ehime Pref., Sikoku.

愛媛県越智(おち)郡高井神(たかいかみ)島はほぼ北緯 34° 11'~12', 東経 133° 16', 瀬戸内海の懸灘で中国本土と四国本土との殆んど中間, 新居浜市北方約 23 軒にある。

ナタオレノキはその東側海辺に大木 1 株 (樹高約 10m, 地上 1 米の部分より二又となり, この部分の周囲 2.6m, 枝では夫々 1.9m, 1.4m) および北端山上に小木 2 株 (地上 1.5m で夫々周 60 及 70cm) がある。

この島の附近には小島 2 個がいずれも 4km 位はなれて存在し, 西方十数 km には大島数個が散在するが, 後者は互いに接近して中国, 四国を連ねているような配置になっているから, 九州, 四国の沿岸を流れる外洋の潮流は直接には影響がない。

植物の種類は島の面積 (約 1.5 平方 km) が小さい割合には豊富で, 羊歯植物以上 200 種を下ることはなからう。暖地性のものを挙げると, アキニレ, アベマキ, イヌビワ, ウバメガシ, クスドイゲ, コイケマ, センダン, トベラ, ナガバヤブマオ, ナタオレノキ, ハスノハカズラ, ハマホウキギ, ヒロハチシャノキ, マルバグミ, マルバシヤリンバイ, ムベ, ヤブツバキ, タキキビ, ノシランなどで, 殊にナタオレノキ, ノシランはこの地方として稀産のものである。

ナタオレノキの分布は文献 2. は本州, 四国, 九州, 対馬, 琉球, 巨文島をあげる。本州, 四国では産地が極めて少なく, 本州で若狭の蒼島, 下関沖の干珠島のみが知られ, また文献 1. および 2. は四国をあげるが, 筆者の知る限りでは, 本報の高井神島のみで, 土佐, 阿波方面にもない。一般に暖地性乃至亜熱帯性植物は四国, 中国では外洋に面した地域に生ずることが多いがナタオレノキは四国の太平洋面になく, この高井神島と干珠島と, 共に瀬戸内海に限られることは注目すべき現象である。

終りに, 四国の産地について, 懇切な御回答を頂いた興山春季氏及び山中二男氏に厚く感謝の意を表す。(松山南高等学校)

## 参 考 文 献

- 牧野, 根本, 日本植物総覧 (1931). 2. 原 寛, 日本種子植物集覧 1. 3. 大井次三郎, 日本植物誌 (1953). 4. Makino T. J. J. B. 3, No. 8 (1926) A contribution to the knowledge of the flora of Japan. 5. 田代善太郎, 日本本土に於ける暖地性植物の分布考察 植物分類地理 13; 306 (1943). 6. 岡国夫, 防長植物分布録 (II) 植物趣味 14, Nos. 3~4: 12 (1953).

1) Journ. Jap. Bot. 27: 235 (1952).